

女子審判トレーニングセンター



開催報告

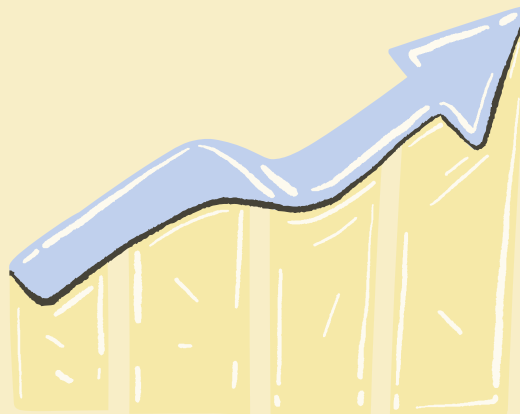


会場：神戸レディースフットボールセンター



SPECIAL THANKS!

協力：神戸国際付属大学高等学校サッカー部の皆様



講師紹介

元国際審判員から女子1級審判まで
で铮々たるメンバーが集結



当日のスケジュール

終日開催した女子トレセン
具体的な時間割を掲載



研修内容①

主に午前部の講義内容を中心
にご報告



研修内容②

主に午後の実技研修の内容を
ご報告



アンケート結果

参加された方々にアンケート調査
を実施し、その内容を掲載



最後に

講師からのメッセージ

2

3

4

7

13

16

01



02



03



ご指導いただいた メインインストラクターの皆様

※資格/役職は開催当時の物で表記しています。

輝かしいキャリアをお持ちでありながらも私たちと同じ目線に立ち・合わせ、いつも優しく、丁寧にご指導いただいている御三方。

アドバイスされる言葉の中に、分かり易さ・的確さ・熱意・少しのユーモアが散りばめられており、その1つ1つの言葉が審判員の耳に届き「スッと入ってくる感覚」になります。

これにより、動き方や判定等で持っていた〈迷い〉〈不安〉〈悩み〉が解消され、【理解】へと繋がりました。

01 松尾 一氏
関西RDO(元J1 PR 審判員)

02 大塚 晴弘氏
現J1 副審(元FIFA 審判員)

03 長岡 康規氏
元FIFA 審判員

REFEREE
training center

SCHEDULE

Have a nice day!



9:10~

集 合 (アクティブ審判員)

10:10~

一般参加者

10:20~

開講式



10:30~

講 演

12:00~

昼休憩・準備

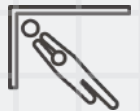


13:00~

プラクティカル
トレーニング

14:00~

トレーニングマッチ



15:55~

グループ発表

16:20~

まとめ・閉講式



テーマ「イレギュラー対応」

講師：女子部長 的崎 睦子 氏（1級審判員）



LECTURE 1

アクティブ審判員（積極性を持って活動に取り組んでいる女子審判員）を対象に一足早く講義がスタート。

テーマに沿って講師兼女子部長である的崎氏よりレクチャーが行われました。

試合中、思いもよらない（イレギュラーな）場面に遭遇する事があります。この講義では、実際にあった稀な事象を映像で確認した後に「私ならこう対処する」を個々に出してもらい、意見交換しながら全員で最善と思われる対応策を考えました。

どんな場面であっても主審は事象をしっかり確認し、プレー続行か、停止するのかを判断しなければなりません。内容によっても対応は様々で、すぐに担架を入れたり、懲戒罰を適用したり、集団対立を未然に防いだり。またプレーを停止した場合は、再開方法と位置に間違いがないかも重要となります。下した判断に不安材料があれば、副審や第四審判のサポートをもらいながらミスなく試合を運営するのが私たちの任務。

競技規則の正しい解釈と理解は大前提とし、イレギュラーがあっても冷静沈着にレフェリーチームとして解決する事を、この講義で学ぶ事ができました。

LECTURE ②

テーマ：「副審が楽しくなる！？
オフサイドについて考える」



「残像に惑わされない」事実を見極めよう！

国際大会はじめ、Jリーグでも副審として活動されている大塚氏。

軽快な話術のもと、表情豊かに話される姿とその内容に、参加した全員が一瞬にして虜になりました。

まずは、ご自身の経歴を紹介された後、いきなり機関車〇ーマスの動画を使って、間違い探しクイズがスタートします。人の視覚・認知力がどこまで正確かを把握するととても斬新で楽しい内容でした。

次に人間の視角について「正確に何度まで見えるか」を説明され、中心視野や有効視野の意味を伝えた上で、実際にその場で腕を広げてやってみました。（※次頁写真参照）

続いて、オフサイドの説明に移ります。競技規則の内容を全員で読み返し、どうなればオフサイドが成立するのかを再確認！

参考として配付された資料にはその解説とミニテストが散りばめられ、これを解答していく事でより理解を深めました。

その後は映像にて判定クイズが数問出され、途中から難易度が高くなっていく中、一喜一憂しながら楽しく合否を確認。パスの出し手と受けての位置、ボールを蹴った瞬間に対するアドバイスがその都度あり、判定速度の向上と視覚効果が、かなりありました。

1時間の講義でしたが、受講者のみならず指導者においても、理解を深める数々の手法を目の当たりにし、非常に参考になりました。

有効視野と間接視野

どこまで 見えるかな？



顔の前に両腕を伸ばし、親指を立てる。
真ん中から徐々に左右に広げていき、視野の広さを測ってみた。

「ココまではちゃんと見えるけど、この辺りからはボヤけて見えるなあ。」
実際にやることで、自分の視野範囲が確認できました！！

BEGINNER REFEREES

PRACTICAL TRAINING



シグナルの提示からオフサイド判定までを実践

昼食を挟んで午後からは屋外に場所を移し、小雨が降る中、副審が使用する旗をそれぞれが持ち、タッチライン際に集合しました。

まずは握り方や指し方を大塚氏から学び、副審の役割や心得も説明いただきました。ボールが完全にフィールドから出た場合、フラッグアップをして主審に知らせる事、最後にボールに触れた競技者の確認、攻撃側をシグナル（で示す）する事など、基本的な物からスタート。また動きの面では、横移動時のステップワーク、旗の持ち替えも含め、丁寧に指導いただきました。少しずつ上達していくに連れ、「腕を一直線にする事で見映えも良くなる他、判定に自信と説得力が加わり、毅然さと正当性が増します。」とのアドバイスが付け加えられていました。

次に神戸国際大学附属高等学校サッカー部の方々との協力のもと、実際にボールをプレーしてオフサイドの状況を作ってもらい、これを幾度となく再現する事で反復トレーニングを重ねました。午前中の講義を思い出し、視野の確保・身体の向きに注意しながら、オフサイドライン上をキープ。パスの出し手・受け手、ボールが蹴られた瞬間を捉え、うまく判定していました。

最初は首を傾げながら恐々とフラッグアップしていましたが、回を重ねる毎に際どい判定まで出来るようになってきており、短時間にもかかわらず目に見えて上達されていたのが、とても印象的でした。



成功体験を多く生み出し、自信を付ける。何より楽しむこと。



「いいよ、いいよ。 それで合ってるよ！」

「出来た！」を量産



「今で合ってるよ！」
「良く見えてたね！」
「OK、ナイスジャッジ！」
「今のどっちだと思う？」
「惜しかったね、今のノット
オフサイドだと思う。」
「オフサイドじゃなかったら
どうするの？プレーはまだ
続いているよね？追っかけ
ないと！」

神戸レディースフットボール
センターの西側コートから大き
な声が聞こえてくる。

そう、大塚インストラクター
の声だ。

トレーニング中、止まる事な
く声掛けを行い、小雨降る肌寒
い空の下、待っている審判員へ
もやる気モードに仕立てる。

動きや判定だけにフォーカス
するのではなく、雰囲気から作
り上げ、演出していくのだ。

それに感化された審判員も好
判定を連発しはじめ、相乗効果
を生んでいった。

列に戻る彼女たちの笑顔がそ
れを物語っていた。

ACTIVE REFEREES PRACTICAL TRAINING



試合を想定した内容で、動き方や見る位置を体得しました。

全フィールドの半分となる東側コートでは、アクティブ審判員が実試合さながらの環境のもと、トレーニングしました。

こちらは、松尾インストラクターが担当され、審判員のすぐ傍について、ボディランゲージを交えながら熱を帯びた指導を行われていました。

テーマは「主審のポジショニング」。サッカー部の方々にご協力いただき、松尾氏が考えられた動き（審判が見辛い状況を敢えて作り出す位置取りやボールの動かし方等）を選手役の皆さんにお願いし、その場面を何度も繰り返しました。

実践直後にフィールド内で反省会が始まります。「見えなかった」「離された」「後ろを通された」「ゴール前での見る位置が適切ではなかった」と口々にする審判員たち。どこに問題があるのか、次にどう動けばいいのか、をインストラクターと一緒に考え、次の順番でうまく修正できたか、対応出来たのか、までを確認します。

次の争点への予測、動き出すタイミング、見える位置への移動等、こちらのグループも回を重ねる度に順次適応されており、質の高いトレーニングが出来ました。

TRAINING MATCH



〈 実技研修の仕上げは紅白戦 〉



ビギナーグループも割当てを行い、決められた時間毎に副審を順次交代しながら個々に実戦経験を積みました。不安払拭の1つとして背後にインストラクターが付き、適時アドバイスを送りました。

その結果、思い切った判定が出来たため自信をつける事が出来ました！

誰がどの時間帯のゲームに入るかを事前割当てによって決められており、午前中の講義と午後からのトレーニングで得た物を試合の中で出せるよう臨みました。

普段男子サッカーの審判をする機会もそう多くないため、スピードや当たりの激しさに多少戸惑いもありましたが、指導いただいた内容を思い出し、動き出しやポジショニングも格段に改善された結果、短時間で良いパフォーマンスを見せる事が出来ました！

他者の動きや位置取りを遠巻きから見守る参加審判員。



- ・「あっちへ動くんですね。」
- ・「もうあそこでの接触はないと判断して次の争点となる位置へ動き始めたね。」





インストラクターより直接指導を受け、次に繋げて行こう！！

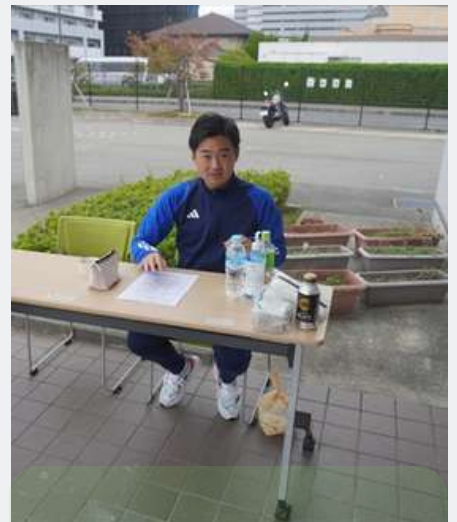
順次交代しながらトレーニングマッチ（20×4本）をやり遂げ、試合後には各インストラクターからの「振り返り」がありました。

ここでは、ただ指導するだけでなく、見つけた課題に対して一緒に考え、改善案を導き出し、落とし込みを図ります。良かった点については、更に伸ばし【自身の強み】となるよう助言。

今回のトレセンを通じて、参加された誰もが経験値を積み上げ、少しでも自信をつけられ、自己分析力や現場での対応力、動きの質と判定精度も上がっていたと感じました。



★PHOTO GALLERY★



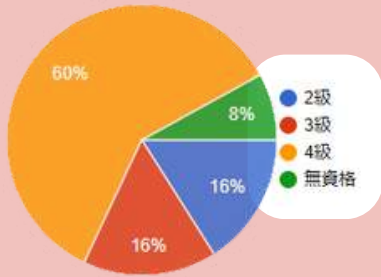
- ・最近どう？
- ・出し手と貰い手の位置関係は？
- ・雨が強くなってきましたねえ。

- ・こんな感じで挙げてます！
- ・yeah!
- ・オフサイドテスト回答中！

- ・えっ、裏もあるやん。。。
- ・あっちへ行かなくちゃ！
- ・サポート業務は、お任せあれ。

女子審判トレセン アンケート結果報告

参加者保有資格比率



Q1.午前中の的崎氏の「イレギュラー対応」の講義はどうでしたか？

- ・ 想定しておくことで実際の場面で冷静な判断ができてと改めて実感しました。
- ・ ルールの再確認ができた。
- ・ ファウルの対応など勉強できて、とても良かった。

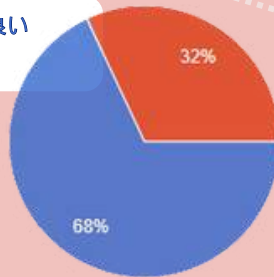
Q2.午前中の大塚氏の「オフサイド」の講義はどうでしたか？

- ・ おもしろくて楽しみながら聞くことができた。
- ・ 動画などを使って分かりやすかった。
- ・ 副審の魅力や審判員の魅力が伝わってきた。

Q3.午前中の的崎氏の審判活動や女性審判員の話はどうでしたか？

- ・ 選手だけでなく審判活動も頑張ろうと思った。
- ・ 身近に素晴らしい女性審判員の方や仲間がいる事を再認識した。
- ・ 「続けることの大変さと大切さ」を知れた。

- 大変良い
- 良い



Q4.午後からのプラクティカルトレーニングはどうでしたか？

- ・ シャド-レフェリーで入ってもらえるととても分かりやすかった。
- ・ フラッグの微妙な角度など丁寧に説明いただいた。
- ・ マンツ-マンの指導があり実践を交えて刺激になった。
- ・ 難しかったけど楽しかった。

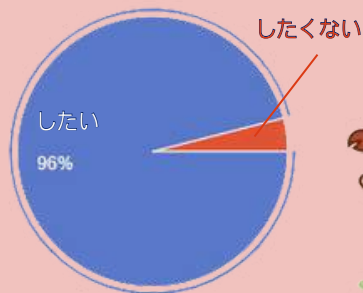
メインテーマ

【チームワーク】

Q5.午後からの実践トレーニング（紅白戦）はどうでしたか？

- ・ 実試合だと動画で見るより何倍も難しかった。（オフサイド判定において）
- ・ プラクティカルトレーニングで学んだことを実践できた。
- ・ 絶対的な時間が短くて物足りなかった。
- ・ 高校男子の試合は縁がなく、早い展開、広いグラウンドにと貴重な経験ができた。

Q6.またこのような審判トレセンにさんな参加してみたいですか？



Q7.トレセンテーマ「チームワーク」について感じたことを教えてください。

- ・ アイコンタクトや話し合いが大切だと思いました。
- ・ 初めての人と組むと「どうチームワークを作っていくか」がまず難しいと感じた。
- ・ チームワークがないと上手いかわからない事が分かった。
- ・ 技術だけでなく、コミュ力も必要。

Q8.今後このような研修会でどんなことを指導して欲しいですか？また今回のトレセンでご意見があれば自由どうぞ。

- ・ 座学も大切ですが、次はトレーニングの時間がもう少し欲しいと思いました。
- ・ 姿勢や走り方、見え方という基本的な内容なども入れてみて効果的かもしれませんね。
- ・ 交代する際の手続きや対応もちゃんと知りたいかも。
- ・ 次はオフサイド以外の動きを勉強したい。
- ・ 毎年参加するたび、自己成長を感じ取れています！
- ・ 指導もしているので、今回得た審判知識を小学校の子供たちにも聞かせたいと思いました。
- ・ 様々な人と関われば良いなと思いました。

アンケート調査にご協力いただき、ありがとうございました。多くのご意見、感想を頂戴しましたが、紙面の関係上全てを掲載できておりません。悪しからず、ご了承ください。



振り返り



講義・実技と、一通り研修を終え部屋に戻り、各グループで振り返りと話し合いをしました。

そこで出た内容をリーダーがまとめ、順に発表していきました。

研修の中で感じた事、出来た事、出来なかった事、気づきや今後の活動に活か

していききたい事などを次々と発表。

「チームワークとして出来た成果と個人も含め、問題や課題を参加者間で共有し、新たな成長の糧となるよう今日の日を大事にしたい。」との締め括りのコメントがあり、大変有意義なトレセンとなりました。

女子トレセンをバックヤードで支えた男たち



谷添 大地 氏
(2級審判員・3級INS)

ユース時代から審判に魅了され、今1級昇級を目指し、奮闘中。

屈託のない彼の笑顔は、性別問わず癒される存在となっている。

現場（試合や研修会場）でのパフォーマンスもさることながら事務スタッフとしても優秀である。



小林 清訓 氏
(2級審判員・3級INS)

比較的口数が少なく、一見控えめに映る彼ではあるが、内に秘めた物はKIRINのシャツと同様に赤く燃え上がっている。

黒子に徹しながらもポイントを見極めながら指導している姿に謙虚さを感じられずにはられない。



井上 克己 氏
(2級審判員・2級INS)

40代になってから2級昇級果たした遅咲きの努力家。

いつも穏やかな表情と落ち着いた口調で話す姿は、まさにベリーエレガント。

沈着冷静で分析力も高く、その的確な指導法は、業界内でも高い評価を得ている。

< 松尾氏 >



今回はじめて主審・副審を経験する人もいましたが、みなさん「チームワーク」をテーマに楽しみながらも真剣に取り組んでいました。

最後の映像でみなさんの楽しそうな表情がとても印象的でした。これを機会に審判に興味をもってもらえたら嬉しいです。

さぁ審判を始めよう！

< 的崎氏 >



今回、13回目の「兵庫県女子審判トレセン」が開催されました。

準備に当たり、過去のトレセンの様子を見てみるとこの女子トレセンをきっかけにアクティブ女子審判員として審判活動を始めた女性審判員がけっこういることに改めて感じることができました。

また今回も約30名の方がご参加いただき前向きな取り組みにうれしく思いました。今回参加された中からまた新たに新しい仲間が加わればさらにうれしいことだと思っております。

最後に、今回トレセン開催でご協力いただきましたスタッフの皆様、会場の皆様、神戸国際高校サッカー一部の選手・指導者の皆様に心よりお礼申し上げます。

< 大塚氏 >



11/16(土)に神戸レディースフットボールセンターで開催された、「2024年度 兵庫県女子審判トレセン」に参加させていただき、ありがとうございました。

今回のトレセンのテーマが「チームワーク」ということで、1人では難しい判定や対応も、他の審判員と協力して、競技者から納得や信頼されるレフェリングをすることの大切さが受講生のみなさんに伝わったと思います。

私は、「副審の楽しみ方」ということで、難しいオフサイドの見極めや判定も、ちょっとしたコツで、少しでも判定しやすくなるようになれば嬉しいなぁ、という思いで自分の体験談も交えてプレゼンをさせていただきました。

午後のプラクティカルや試合での実戦においても、午前の座学で得た知識を活かし、どのような所を意識するべきかを、一緒に走りながらアドバイスさせていただきました。

受講生のみなさんは、審判資格や年齢、経験も違う中でしたが、それぞれが一生懸命取り組まれ、キラキラした眼が印象的でした。

今回のトレセンを通じて、審判の難しさも楽しさも感じて、今後の活動にも活かしていただけたら幸いですし、今後も多くの方が参加し、兵庫県から関西、日本、そして世界へ羽ばたく審判員が出てくれたら嬉しいです。もちろん、1級や国際が全てではなく、それぞれのカテゴリーで活躍できるよう、バックアップやフォローも大切だと感じました。

また機会がありましたら、参加させていただき、みなさんと一緒に汗を流しながら楽しめたらと思います。

本当にありがとうございました♪